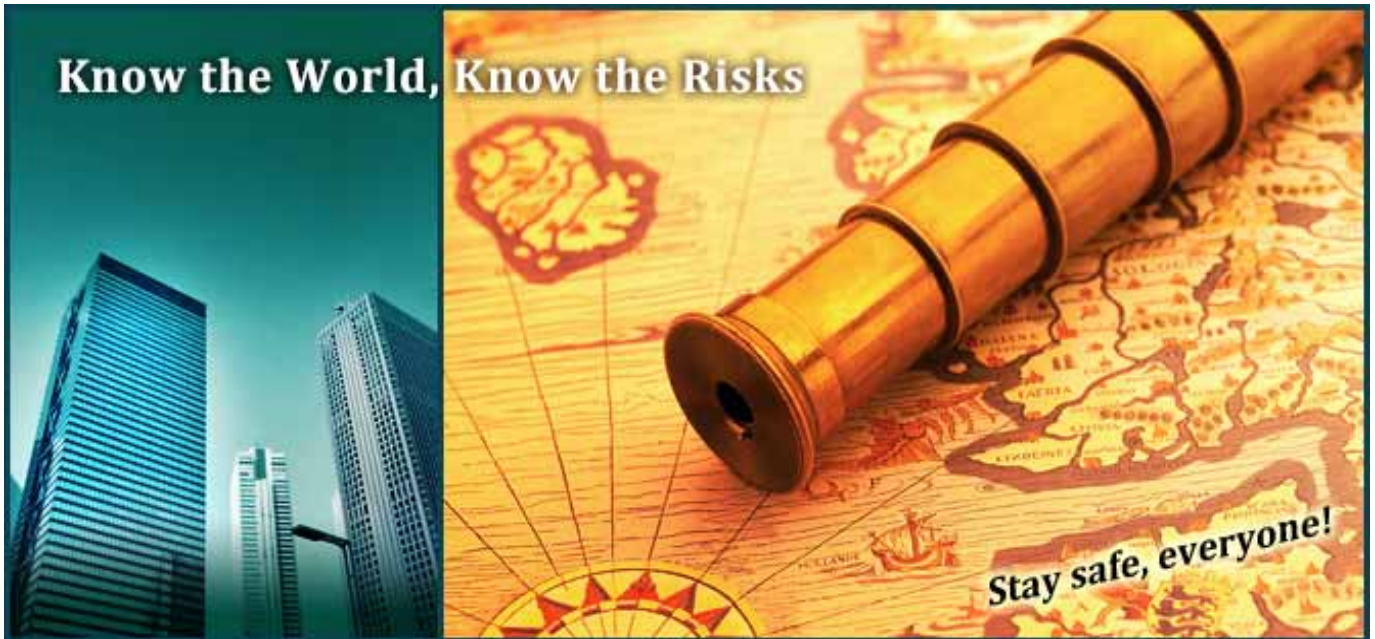


海外危機管理Letter

2012.11.22
Vol.301

HEADLINES

- タイ：反ワクチン派の反政府集会は最大10万人規模に
- 中国：福建省で1万人が公安当局に抗議 一部暴徒化
- メキシコ：貨物トラックを狙う強盗が増加
- ブラジル：サンパウロ周辺で治安悪化続く
- イスラエル・パレスチナ：停戦で合意 地上戦回避 テルアビブでバスが爆発

今週のTOPIC

タイ：反ワクチン派の反政府集会は最大10万人規模に

タイ首都圏警察(MPB)は20日までに、反ワクチン元首相派の新興団体「ピタック・サヤーム(PS、タイ守護)」が24~25日にバンコク都内のラーマ5世騎馬像前広場(ロイヤルプラザ)で開催予定の反政府集会に、最大で8~10万人の参加者が集結する可能性があることを明らかにした。

集会は、インラック政権の汚職の蔓延や、同政権が王室批判を野放しにしてきたことに抗議し、同政権打倒の大衆運動を引き起こすことを狙ったものとみられる。集会には、地方からも大量の参加者の動員が見込まれており、特に反ワクチン派勢力の地盤である南部16県からは少なくとも5万人の動員が計画されているとの情報がある。

MPBは23日からバンコクへの入域地点に検問を設置して集会参加者が武器などを持っていないか所持品検査を実施する予定だが、当局者は「参加

者の都内入りを阻止するつもりはない」としている。

一方、タイ国家安全保障会議(NSC)のパラドーン事務局長は20日、政府の情報機関が最近、第三者(外部勢力)の不審なグループがバンコク都内で赤シャツ4,000枚を購入したとの情報を入手したことを明らかにした。

NSCは、不審なグループが、ワクチン派団体「反独裁民主戦線(UDD)」、通称「赤シャツ団」のメンバーを装って、破壊分子を反政府集会に乱入させて、暴力的な衝突などを煽動する可能性があることを警告した。

PSのリーダー、ブーンラート退役陸軍大將は「20万人が集まらなかったら(集会を)中止したほうが良かったです」と豪語する一方で、集会参加者の規模次第で政府打倒に向けたより過激な街頭示威行動を展開する可能性を示唆している。

ASIA

中国

●偽高級ブランド品密輸の大規模組織を摘発

公安省は18日、ルイビトンやエルメス、コーチなどの高級ブランドのバッグを偽造して米国や中東向けに大量に輸出していた組織の容疑者73人を逮捕したことを明らかにした。

当局は偽造バッグ2万個以上、製造機器17台、送金や利益を受け取るための銀行口座のキャッシュカード多数を押収するとともに、偽造品の製造輸出拠点37ヶ所を閉鎖した。製造された偽造バッグの数は96万個以上とされる。

広東省公安当局は1月、同組織の主犯格の存在を突き止め、捜査を続けていた。同組織は広東、福建、安徽の各省に拠点を持っていた。

●福建省で1万人が公安当局に抗議 一部暴徒化

中国福建省寧徳市福安で17日、住民約1万人が、市内で起きた交通事故をきっかけとして公安当局に抗議デモを行い、一部のデモ参加者が警察の車両を破壊、横転させるなど暴徒化し、警察部隊と衝突、20人以上が負傷した。

デモのきっかけは同日夜に市内で実施された飲酒運転の検問だった。検問を逃れようとした男が逃走を試みたため、警察はパトカーで追跡。すると、男の車はオートバイ少なくとも3台に次々に衝突し、5人が負傷した。

目撃者などによると、警察や救急が事故現場に到着するのに1時間近くかかったため、現場に集まった住民らが怒りを爆発させ、暴動に発展した。

●広州市長が新たな開発計画を発表

広東省広州市の陳建華市長は14日、同市の新たな都市開発計画を明らかにした。それによると、市に2つ目の中心部を開発するほか、より進歩的な産業・製造業を奨励する。また、これまでは、中国で第3位の経済都市として国の経済成長への貢献が目標だった

が、今後は市民の住みよい環境作りに重点を置き、二酸化炭素の排出を少なくするほか、人材の育成・開発にも努めるとことになるとされる。

中国国務院は先月、同市南沙新区の開発計画を承認し、同区は中国で6番目の国家級新区となる。

●浙江省 住民1,000人と警察部隊が衝突

香港の一部報道が22日報じたところによると、浙江省温州市の村2ヶ所で20日、変電所の建設に反対する住民1,000人以上が約2,000人の警察部隊と衝突した。

暴徒化した住民らは、警察車両少なくとも4台と地元報道機関の車両1台を破壊した。報道によると、衝突による負傷者は数百人に上ったとされる。

同変電所の建設では民家の上に高圧線を張ることになり、住民はこれによる健康への影響について懸念を訴えている。

●白酒からフタル酸ジブチル検出

中国国家質量検閲検疫総局は21日、湖南省の酒造メーカーの白酒から、基準値を大幅に上回るフタル酸ジブチル(プラスチックの軟化剤)が検出されたことを明らかにした。衛生部の同物質の食品中標準許容量は0.3ミリグラムだが、1キロ当たり最大1.04ミリグラム含まれていた。

中国酒業協会によると、同国の酒には平均約0.5ミリグラムのフタル酸ジブチルが含まれ、高級品になるほど含まれる量が多くなる傾向にあるとされる。吉林農業大学食品科学教授によると、酒の貯蔵や輸送に使われるチューブや容器の塩化ビニール樹脂から、あるいは、香料から出たものとされる。

フタル酸ジブチルの過度の吸収は、内分泌かく乱を生じさせる疑いがあり、日本では一部の製品への使用が制限されている。

タイ

●南部で旅客列車を狙った爆弾テロ 3人死亡

タイ最南部ナラティワート県ルッソー郡内で18日早朝、国鉄駅付近の線路上に仕掛けられた高威力の爆弾が爆発し、通過中の旅客列車内の警備担当者3人が死亡、乗客乗員35人が負傷した。負傷者は、爆発で腕や脚が切断された4~5人をはじめ多くが重傷の模様。死傷者に外国人がいるとの情報はない。

列車は2両が大破し、脱線した。現場は、同郡バンサロ地区にあるブキットユレ駅から1キロの地点で、ガスボンベを利用した重さ100キロの大型爆弾が爆発した。

その直後には、線路脇に潜んでいた武装集団が列車に向けて一斉射撃し、多数が負傷した。負傷者は全員がルッソー郡病院に緊急搬送された。

タイ国鉄は現場を通過するヤラ・スンガイコロク間の列車運行を事件直後から停止している。最南部では、同地域のタイからの分離独立を唱えるイスラム過激派の武装集団が連日のように爆弾・銃撃テロを繰り返しており、2004年初めから現在までに5,300人以上がテロ関連の事件で死亡した。今回の事件もイスラム過激派に属するテロ集団による犯行と断定された。

インド

●ガンジス川の祭りで橋崩落 18人死亡

東部ビハール州パटनाで19日夜、ヒンズー教の祭典でガンジス川に沐浴に集まった信者らが渡っていた竹製の仮設の橋が崩落。後続の信者らが次々に将棋倒しになり、女性10人と子供8人の計18人が死亡、数十人が負傷した。

警察は、橋が人の重みで大きく揺れ、慌てた信者らが一斉に走り始めたため橋が崩落したとみている。

●農民がサトウキビ価格値上げ要求で暴徒化

西部マハラシュトラ州のサトウキビ生産地コルハプールで14日、農民たちが砂糖生産会社に対して、サトウキビの買い取り価格の値上げを要求する抗議デモを行い、一部が暴徒化し、警察車両に放火するなどした。

警察は威嚇射撃などで鎮圧に当たったが、農民1人が脚に銃弾を受け病院に搬送された。デモを計画した1人が逮捕された。

パキスタン

●シーア派施設近くで爆弾テロ 3人死亡

パキスタン最大の商業都市カラチのアッバスタウン地区にあるイスラム教シーア派の集会所近くで18日、爆弾テロが発生し、少なくとも3人が死亡、14人が負傷した。爆弾は、オートバイに仕掛けられ、遠隔操作で起爆された。

同国では16日、イスラム歴の第1月にあたるムハラム月の開始に合わせ、多数派のスニ派と少数派のシーア派の対立に起因する暴力事件の発生を防ぐため、全土で警戒が強化された。携帯電話が爆弾を起爆させるために使用されるのを防ぐために、一時的に携帯電話の通信ネットワークが遮断されるなどの措置が取られた。

フィリピン

●女子大生が首都近郊の自宅で刺殺される

マニラ首都圏の東郊にあるラグナ州ビニャン市で19日、国立フィリピン大学(UP)農学部3年の女子学生(19)が自宅内で刺殺体で発見された。

帰宅した父親が玄関のドアを開けるように娘に呼びかけたが、応答がなかったため、ドアを壊して屋内に入ったところ、娘が身体の数ヶ所を刺されて死亡しているのを見つけたという。

警察の調べでは、屋内から携帯電話、ノートパソコン、カメラのほか、貴重品類などが紛失しており、捜査当局は強盗殺人事件の可能性が高いとみて捜査を進めている。ただ、被害者が性的な目的で襲われた可能性も否定できないとして、遺体の司法解剖の結果を待って犯行動機を見極めるとしている。

UPでは3月にも、ロスバニョス・キャンパス周辺で農学部の男子学生(19)が強盗に刺殺される事件が発生している。

ミャンマー

●米政府が経済制裁を大幅緩和

米政府は16日、オバマ大統領が19日に米大統領として初めてミャンマーを訪問するのを前に、約20年にわたりミャンマーからの輸入を禁止してきた制裁措置の大半を解除したと発表した。今後は、ミャンマーの主要輸出品目である宝石類の一部以外は、禁止措置が解除される。

宝石類の輸入禁止措置が解除されなかったのは、人権侵害の懸念が残っている軍部の主要な資金源とされているためとされる。今回の輸入解禁はミャンマー政府の民主化を促進し、両国の関係改善を目的に決定したという。

AMERICAS

米国

●米国権益に対する爆弾テロ計画の4人逮捕

米連邦捜査局(FBI)は20日、カリフォルニア州ロサンゼルス郊外で、海外にある米国権益を標的とするテロを計画し、アフガニスタン拠点を拠点とする国際テロ組織アルカイダ系組織とイスラム原理主義組織タリバンに参画しよとした容疑で、若者4人を起訴したことを明らかにした。

4人のうち、主犯格の1人(34)は、ロサンゼルス郊外在住の2人を勧誘し、アルカイダ思想を教え、アフガニスタンにあるタリバンの軍事キャンプへ参画するよう手配したとされる。

この男は、アフガニスタン出身で米国籍を持っており、

2011年まで米空軍に所属し、退役後にアフガニスタンへ渡ったとされる。滞在先のアフガニスタンで17日に逮捕された。

男が接触した2人のうち1人(23)はフィリピン出身で米国の永住権を取得している。もう1人(21)はメキシコ出身で、同じく米国の永住権を持っている。

2人は9月に米国籍の男(21)を仲間に引き入れ、3人で射撃場で射撃の演習を行うなどして、アフガニスタン入りに備えていたとされる。

2人は、2人と面識をもったFBIの協力者に、アフガニスタンで主犯格の男に合流し、軍事キャンプに参画すると話し、3人は16日に逮捕された。

●NY市で連続殺人事件 被害者3人

米連邦捜査局(FBI)は20日、カリフォルニア州ニューヨーク市ブルックリンのフラットブッシュ地区で16日、衣料品店の店員が拳銃で殺害された事件で、ニューヨーク市警察(NYPD)が、今年の7月と8月にブルックリンで発生した別の2件の衣料品店店主銃殺事件と同一犯人による犯行とみて捜査していることを明らかにした。

7月6日にはベイリッジ地区の衣料品店内で、8月2日にはベンソンハースト地区の店でそれぞれ店主が銃殺された。いずれも今回の事件で使用されたものと同じ拳銃が使用されたという。

被害者は3人とも中東系の市民で、3人の店は半径約8キロ圏内にある。NYPDは、現在まで3件の事件の背後関係をつかめていないが、先の2件では現金も奪われていることから、強盗殺人事件の可能性や、人種差別思想を持つ者による犯行の可能性も視野に入れて捜査している。犯人の逮捕につながる情報の提供に2万2,000ドルの懸賞金がかけられた。

●NY市 700万ドル稼いでいた売春組織摘発

ニューヨーク市警察(NYPD)は20日、売春斡旋で700万ドルを荒稼ぎしていた組織を摘発し、容疑者15人を逮捕した。NYPDは16ヶ月にわたる捜査の末、マンハッタンのミッドタウンにある一味の広告事務所を摘発した。

一味は、2010年1月から2012年10月まで、ケーブルテレビ、ニューヨーク市で無料配布されている週刊新聞「The Village Voice」、広告ウェブサイトにもエスコートサービスの広告を出していた。また、売春の客にコカインを提供していたとされる。警察は、他の4人の容疑者の行方を追っている。

●ミズーリ州の映画館で銃乱射計画 男を逮捕

ミズーリ州ポリバー市の警察は16日、人気映画シリーズの新作「トワイライト」を上映中の映画館で銃を乱射する計画をしていた男(23)を逮捕、起訴した。

警察当局によると、逮捕のきっかけとなったのは男の母親からの通報だった。母親は15日、「今年7月にコロラド州オーロラ市の映画館で発生した銃乱射事件に使われたのと同じような武器を息子が購入した。息子は映画館で銃を乱射するかもしれない」と警察に伝えたという。

男は、ライフル2丁と銃弾約400発、18日の映画のチケットを購入。男の供述によると、18日に映画館へ行き、警察が駆けつけるまで観客に向けて銃を撃ち続ける計画だったという。

また、男は映画館近くのスーパー「ウォルマート」の店舗でも、銃を乱射する計画でいたとされる。警察によると、男は違法に銃器の購入許可書を入手した可能性があるとして捜査している。男は21日に出廷する。

●スクールバス内で発砲事件 女子生徒1人死亡

フロリダ州マイアミ南郊ホームステッドで20日午前7時前、男子生徒が走行中のスクールバス内で発砲する事件が発生し、13歳の女子中学生が首を撃たれて死亡した。

女子生徒は撃たれた後、マイアミ市内の病院に搬送されたが、死亡が確認された。警察は男子生徒を拘束し、銃を押収した。犯行動機は不明。バスは、犯人と被害者のほか8人の生徒を複数の学校に送り届ける途中だった。

●ダイエット用サプリメントで13人が死亡

米食品医薬品局(FDA)は15日、コンビニ店などでも販売されているダイエット用のサプリメント「5-hour ENERGY」を摂取したとみられる13人が死亡したことを明らかにした。摂取後に入院した患者も33人いるという。

この製品のラベルや販売元のウェブサイトでは、摂取は1日2本までで、摂取間隔は数時間おく必要があるとの注意が書かれている。

一方で、服用と死亡の因果関係はまだ判明していないため、FDAは、カフェインやタウリンの含有量などの要因について調査を行っているという。

メキシコ

●貨物トラックを狙う強盗が増加

現地紙によると、2008年から2011年の間、犯罪組織による貨物トラックを狙った強盗で、約50億メキシコペソ(3億8,000万ドル相当)の損害が発生している。

トラック業界は被害防止のため、10台以上の車列を組んだり、全地球測位システム(GPS)を設置したりしているが、犯罪組織も手口が高度化しており、GPSを無効化するなどしているとされる。

犯罪被害が多いのは、メキシコ州と連邦地区で60%を占めている。2011年のトラック強盗件数は、352件で、2012年1~8月は169件となっている。

●ミチョアカン州 女性元市長が殺害される

中西部ミチョアカン州当局は17日、同州のTiquicheoの元市長(36)が遺体で発見されたことを明らかにした。現地報道によると、元市長は12日以降、行方が分からなくなり、14日に家族から捜索願が出されていたという。

元市長は、市長を務めた2008年から2011年の間、2度にわたり襲撃されたことがある。2009年10月の最初の事件では、車で移動中に狙われ、同乗していた夫が死亡した。さらにその3ヶ月後に2度目の襲撃を受け、元市長自身も重傷を負った。カルデロン前政権による麻薬組織掃討作戦が2006年に開始されて以降、6年間で24人の市・町長が殺害されている。

ブラジル

●サンパウロ周辺で治安悪化続く

サンパウロ州で15日、殺人事件が7件発生し、少なくとも7人が死亡、15人が負傷した。州都サンパウロ市では、非番の警察官3人が殺害された。うち2人は車で走行中に撃たれ、1人はバーで銃撃された。サンパウロ市から約250キロ離れた同州中部アララクアラでも、各地で銃撃事件が発生し、5人が死亡した。

サンパウロ市では10月以降、殺人事件が250件以上発生するなど、急増している。中でも警察官の犠牲者が多く、今年に入り94人が殺害されている。

州当局と警察は、刑務所内から殺人の指示を出しているとされる犯罪組織「首都第一コマンド(PCC)」の幹部をアマゾンの湿地帯ロライマ州にある刑務所に移送することを決定した。

専門家の間では、州警察とPCCとの間で、州警察がPCCの幹部を別の刑務所に移送しないほか、PCCへの取り締まりの手を緩める代わりに、PCCは殺人事件への関与を止めるという密約があったが、警察側が密約を反故にしたため、PCCが再び活動を活発化させているとの見方がある。警察当局は、密約について否定している。

カナダ

●機内で「爆弾」と発言した女を逮捕

モントリオールのピエール・エリオット・トルド国際空港で15日朝、離陸を待つ旅客機内で、乗客の女が客室乗務員に攻撃的な態度を取り、「爆弾」と発言したため、逮捕される騒ぎがあった。

同機はトロントへ向かうエアカナダの国内線7783便で、騒ぎの後、空港のターミナルに戻り、女は駆けつけた警察に逮捕された。女は、同空港の管理会社の広報担当。

同機は騒ぎのため、出発が4時間遅れて目的地のトロントの空港へ向かった。

EUROPE

フランス

●反イスラム行為の増加が警戒レベルに

フランスのイスラム嫌悪監視団体によると、同国ではイスラム教徒に対する差別的行為が警戒すべきレベルにまで増加している。同国内の反イスラム感情は反ユダヤ感情と同様に深刻な事態としている。

2011年の反イスラム的行為は前年比34%増で、2012年はさらに警戒すべきレベルとなっている。2012年1～10月の件数は175件で、前年同期比42%増となっている。同団体関係者は、反ユダヤ的行為は同国では犯罪となっていることを考慮し、反イスラム的行為をもっと真剣に取り扱われるべきだとした。

■渡航情報

【外務省発出渡航情報】

「渡航情報」には、渡航、滞在にあたって特に注意が必要な場合に発出される情報で、治安情勢や安全対策の目安を示す「危険情報」、限定された期間、場所、事項について速報的に発出される「スポット情報」、複数の国や地域にまたがる範囲に発出される「広域情報」があります。各情報の詳細は以下のとおりです。

・外務省海外安全ホームページ：
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(各国機関リンク)

・米国外務省：
http://travel.state.gov/travel/cis_pa_tw/tw/tw_1764.html

・英国外務省：
<http://www.fco.gov.uk/>

◆日本外務省:11月22日発出渡航情報(最新情報6日分)◆

■**危険情報**:イスラエル及び西岸・ガザ地区に対する渡航情報(危険情報)の発出、ベネズエラに対する渡航情報(危険情報)の発出

■**スポット情報**:**ザンビア**(デノミネーションに伴う注意喚起)、**ルワンダ**(同国北西部国境付近の治安情勢についての注意喚起)、**イスラエル**(ガザ情勢の緊迫に伴う注意喚起)、**アフガニスタン**(治安情勢)

◆米国外務省、英・豪・加国外務省:11月22日発出渡航情報(7日分)◆

■**レバノン**、**ギニアビサウ**、**エリトリア**、**コンゴ**、**チュウオウアフリカ**、**ブルンジ**、**パキスタン**、**ナイジェリア**、**モーリタニア**、**マリ**、**リビア**:「渡航の是非を検討」及び地域により「渡航の延期をお勧め」(加) ■ **パキスタン**、**コンゴ**:「渡航の是非を検討」及び地域により「渡航の延期をお勧め」(豪) ■ **チャド**:「渡航の延期をお勧め」および地域により渡航の是非を検討(加) ■ **フィリピン**:「渡航の延期をお勧め」及び地域により「渡航の是非を検討」(豪) ■ **エジプト**、**インド**、**コンゴ**:地域により「渡航の延期をお勧め」及び「渡航の是非を検討」(英) ■ **イスラエル**、**イラク**、**エチオピア**、**エジプト**、**イラク**、**ミャンマー**、**アルジェリア**、**タジキスタン**、**南スーダン**、**ニジェール**:地域により「渡航の延期をお勧め」及び「渡航の是非を検討」(加) ■ **ケニア**、**イラン**、**カンボジア**、**ブルキナファソ**、**バングラディシュ**、**アゼルバイジャン**、**アフガニスタン**、**イエメン**、**ベネズエラ**、**タイ**、**シリア**、**スーダン**、**ソマリア**、**セネガル**、**ロシア**、**フィリピン**:地域により「渡航の延期をお勧め」(加) ■ **ウガンダ**:地域により「渡航の延期をお勧め」(英) ■ **コンゴ**、**インドネシア**、**インド**、**ハイチ**、**ブルキナファソ**、**ウガンダ**、**トルコ**、**シエラレオネ**、**ルワンダ**、**ペルー**、**リベリア**:地域により「渡航の是非を検討」(加) ■ **サウジアラビア**:地域により「渡航の是非を検討」(米) ■ **トルコ**、**メキシコ**、**ルワンダ**:地域により「渡航の是非を検討」(英) ■ **カンボジア**:「渡航の延期をお勧め」(英) ■ **イエメン**:「渡航の延期をお勧め」(米) ■ **キルギス**、**ギニア**:「渡航の是非を検討」(加)

MIDDLE EAST

イスラエル・パレスチナ

●**停戦で合意 地上戦回避 テルアビブでバスが爆発**
エジプト・カイロで21日、クリントン米国務長官とエジプトのムルシ大統領が共同で記者会見を行い、イスラエルとガザ地区を実効支配するイスラム原理主義組織ハマスとの間で、停戦が合意されたことを明らかにした。

停戦は現地時間21日午後9時より実施される。これにより、8日にわたる戦闘に終止符が打たれ、イスラエル軍のガザ地区進攻、地上戦は回避された。

停戦合意により、ロケット攻撃や空爆などあらゆる戦闘行為が停止され、イスラエルは閉鎖されているガザ地区との境界検問所を開き、物資がガザ地区内に輸送できるようにする。

一方、イスラエルのテルアビブ中心部にある軍本部近くで21日、バスが爆発し、少なくとも21人が負傷した。イスラエル当局は、単独犯による爆弾テロとしている。事件後ハマスは声明を出し、事件への関与を否定した。

AFRICA

エジプト

●**デモ隊の衝突から1年 集会で再び衝突**

暫定政府の統治に抗議するデモ隊と警官隊の衝突で42人が死亡した事件から1年を迎えた19日、カイロ中心部のタハリール広場では5,000人が集まって追悼集会を開いた。

その後、一部のデモ参加者が暴徒化し、警官隊と衝突、

デモ参加者60人と警察官10人が負傷した。

追悼集会では、デモ参加者数百人が警官隊に投石するなど過激な行動に出たため、警官隊は催涙ガスと威嚇射撃で鎮圧に当たった。

エジプトでは昨年、軍最高評議会(SCAF)による統治に反対する市民らと治安部隊とが激しく衝突、多数の死傷者が出た。

ケニア

●**首都でバスを狙った爆弾テロ 5人死亡**

ナイロビのイーストレイで18日、小型バスを狙った爆弾テロが発生し、6人が死亡、24人が負傷した。警察によると、爆弾は路上ではなくバス車内に仕掛けられていた可能性がある。

当局は、ケニア軍がイスラム過激派「アルシャバブ(AS)」制圧のため、ソマリア国内に軍を派遣していることに反発するソマリアの過激派やその同調者による犯行とみている。事件後、同地区では緊張が高まっている。

南アフリカ

●**農民らが賃上げ要求で暴徒化 警察の鎮圧で1人死亡**

西ケープ州デ・ドールンスのブドウ農園で5日以降、農園の労働者による賃上げを要求するストと抗議デモが続いた。当初、デモは数百人規模だったが、翌6日には8,000人に膨れ上がり、警察部隊が配備された。

14日には、労働者たちは道路を閉鎖、ブドウ畑に放火するなどしたため、警察部隊がゴム弾を発射するなどして鎮圧に当たった。1人が死亡、5人が負傷したほか、数人が逮捕された。現在、農園主と労働者側との賃金交渉が行われている。

おことわり

今週のコメントリーはお休みさせていただきます。ご了承ください。

【発行・編集】

NKSJリスクマネジメント株式会社 リスクコンサルティング事業本部 ERM部 企画グループ
〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル27F
URL: <http://www.nksj-rm.co.jp> Tel: 03-3349-9316

【ご注意】

- 本情報配信についてのご意見、ご質問、配信先の変更、配信停止のご希望がございましたら右記までお問い合わせください。
- 特定地域の治安状況や感染症に関する情報をお知りになりたい方には、別途調査のうえ情報提供をいたします。
- なお本Letterは複製又はご登録企業様以外の第三者に再配信することは差し控えていただくようお願い致します。

【情報提供】

(株)オオコシセキュリティコンサルタンツ

■その他情報ソース

- ・各国外務省(日本、米国、英国)
- ・WHO、米疾病対策センター(CDC)
- ・(社)日本在外企業協会、その他サイト